

令和3年度12月 第8回 地域連携部門研修会 報告

日時：令和3年12月23日（木） 19:00～19:45

場所：ZOOMにて

出席者：院内薬剤師 17名、院外薬剤師 12名、企業1名

第8回地域連携部門研修会は、「吸入指導～レスピマット製剤～」をテーマに開催致しました。レスピマット製剤の特徴、症例検討、調剤薬局における症例事例集について薬局薬剤師の先生方とのディスカッションも交えながら当院薬剤科吉良より講演を致しました。

1、スピオルトレスピマット

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 MR さんよりスピオルトレスピマット 60 吸入に関して下記のようにご説明頂きました。

スピオルトレスピマット 60 吸入

成分：チオトロピウム 2.5 μ g/オロダテロール 2.5 μ g(LAMA/LABA 製剤)

適応：COPD（慢性気管支炎、肺気腫）

用法用量：1日1回 1回2吸入

使用期限：開封後3か月以内に使い切り

特徴：①薬剤を含んだ柔らかく細かい霧を長くゆっくりと生成し噴霧させる独自の送達システム。

②吸気流速度30以下であっても使用可能なデバイスであり、沈着率も良好。

→最大吸気流速度の低下した COPD 患者にも使用しやすい

注意点：①最低3回の吸入指導により改善が見込める。1回の指導では約60%のエラー。

②まわす→あける→ゆっくり吸うことを指導する（ゆっくり吸う事が大切!）。

→指導時はメーカーの教育用資材や必要に応じて補助器を用いると良い。

③吸入薬を組み立てた状態でお渡しすることを推奨。

2、症例検討（デモンストレーションとディスカッション）

【患者情報】

使用薬剤：スピリーバレスピマット 1日1回2吸入、ホクナリンテープ 1mg 1日1枚

背景(問題点)：①吸入薬と貼付剤の残薬あり、②残薬に関して薬剤師から主治医へ報告後、残薬を使用する場合、③回転操作に苦戦している様子、④蓋を開けずに回転する様子、⑤勢いよく吸入する様子

上記患者の背景より、①～⑤のピットホールに関してディスカッションし、薬剤師の先生方より様々な指摘や指導のアドバイスを頂きました。



薬局薬剤師

A先生(薬)



病院薬剤師

A先生(病)

①DISCUSSION

⑤勢いよく吸入する様子 に関して

F先生(薬)：ゆっくり吸った方が良いと指導している。

A先生(病)：指導方法はどのように？

A先生(薬)：秒数は指導していないけど、ゆっくり押すように指導している。



薬局薬剤師

F先生(薬)



病院薬剤師

A、K先生(病)

②DISCUSSION

①吸入薬と貼付剤の残薬あり に関して

F先生(薬)：指導依頼のない時でもしっかりと指導を行なうこと、残薬があるため本当に使えているか何度もフォローすることが必要な患者だと感じた。

A先生(病)：処方提案は必要か？薬剤は変えるべきだと考える？

F先生(薬)：処方提案に行く前に、薬局で出来ることをピックアップしてみる。

K先生(病)：どういった使い方をしているか、患者さんに聞いた方が良いと思う。



薬局薬剤師

T先生(薬)

③DISCUSSION

④蓋を開けずに回転する様子 に関して

T先生(薬)：吸入する際に蓋を閉めていないことが気になった。



病院薬剤師

A先生(病)

④DISCUSSION

これは実際にあった症例として、皆さんへ意見を聞いてみたい。

・今回のようにホクナリンテープを併用している患者の経験はある？

→他のメンバーはこの症例は今回がはじめて。

・吸入時に回転できない人はいる？

→他のメンバーは今までスピリーバの回転が出来なかった患者への指導はなかった。

今後回転が出来ない患者への回転補助器具“かいてんくん”の利用に関して提案！

3、調剤薬局における症例事例集

調剤薬局における症例事例を共有し、さらにディスカッションを行ないました。

事例 1.発見したピットホール

- ・レスピマット製剤のデバイスがかたいため、うまく回転ができない。
 - ・ゆっくりと長く吸うべきなところ、勢いよくエアーを吸入していた。
- ★繰り返しの指導が大切である！

事例 2.レスピマット製剤に関する変更・検討

- ・スピリーバレスピマットとホクナリンテープを併用していた
- ★スピオルトへの変更を検討した！
- ・以前はLAMA/LABA 製剤はウルティブロしかなかったが、スピオルトが院内採用となったことから疑義照会にて変更した。

😊
薬局薬剤師

H先生(薬)

😊
病院薬剤師

K先生(病)

😊
MRさん

①Question!

H先生(薬)：レスピマットのみ吸入している患者さんへうがい指導は必要？

当院吸入指導報告書には、全てに「うがい」の項目が設けられているがうがいが面倒、という理由でコンプライアンスが低下する懸念がある。

K先生(病)：デバイスごとに分けたことによる混乱を防ぐために、全てのデバイスでうがい指導をしている。

MRさん：基本的にレスピマットはICSを含んでいないためうがいは不要。

H先生(薬)：ICSが含まれていなくてももうがいを指導していたが、レスピマットを使用している患者の中にうがいを面倒に感じている方がいた。指導用紙にうがいの記載がなく、必要性を疑問に思った。患者本人も、うがいが面倒で服用しないことがあると言っていた。

K先生(病)：毎日継続するためのハードルは下げたいため、不要で構わない。吸入指導報告書のフォーマットにこのような意見を反映させていきたい。

①Answer!

😊
薬局薬剤師

E先生(薬)

😊
病院薬剤師

K先生(病)

②Question!

E先生(薬)：吸入方法について、10秒吸入するよう記載あるが、なかなか厳しいのでは？病院では何秒吸うよう指導しているのか？

K先生(病)：吸入に10秒間必要かどうか疑問はあるが、吸気チェッカーを使用してみると吸気力ほとんど不要であることが分かる。練習によって、10秒間吸入することは可能と思われるが、実際には1~2秒程で薬剤を吸入できるため厳密な秒数管理は不要と思われる。

②Answer!

😊
薬局薬剤師

E先生(薬)

😊
病院薬剤師

K先生(病)

😊
MRさん

③Question!

E先生(薬)：「デバイスを回して吸入→蓋を閉めて回して」と操作方法があり、蓋を閉めなくても回転は可能であるが蓋を閉める必要性はあるのか？

MRさん：蓋を閉めることによって噴霧ボタンキャップとカバーが重なり、ボタンを押すことができなくなる。誤ってボタンを押した際、薬が目に入ることを防止する目的がある。ボタンを押していなくても少量のミスト状の薬剤が出てきているため、蓋をした方が良い。

K先生(病)：目に入っても問題ないと聞いた。

MRさん：目に入った時のデータがないが、有害事象は報告されていない。

③Answer!

4、本日のまとめ(Take home message!)

- ・レスピマット製剤に関して
 - ①ソフトミスト製剤であり、吸気力が低下している患者も吸入できる。
 - ②吸気速度と同調に注意が必要であり、繰り返し指導することが重要。
 - ③スピオルトが院内採用となったため、今後処方が増加すると考えられる。
- ・コンプライアンス不良患者を減らすために問題点(ピットフォール)の表在化を行うことが重要。
- ・困ったことがありましたら当院地域連携のメンバー宛てにお電話を！